

6章 災害に係る課題

6-1 災害時にも機能する道路ネットワークの構築

これまで県内各地で水害や土砂災害が発生しており、通行止めに伴う大幅な迂回や待機による生産性の低下や、観光や物流の取り止めなどにより甚大な経済損失も発生しています。また、現在も緊急輸送道路上には津波災害警戒区域や土砂災害警戒区域などの災害時に危険性の高い箇所が複数存在しており防災対策が必要な状況にあります。

図表 平成 30 年 7 月豪雨災害における道路網の寸断と企業への影響



物流事業者の声



- 宇品港より志和迄の配送については、通常片道 1 時間程度が 4～6 時間程度要し、予定輸送物量が大幅に減少した。
- 呉市外からの物流が悪く、納品がかなり遅れました。
- 各方面の主要道路が使用不可となったため、物流がストップし、仕入が出来なくなった。
- 原料が入荷しなかった。運送便が止まったので出荷できなかった。
- 郷原工業団地内の主幹道路が通行止めとなり、運輸が出来ない状況が続いた (約 1 週間)。近くの幹線、国道、東広島呉道、山陽道の通行止や片側通行による大渋滞により、物流の時間が読めなく工程に支障があった。
- 規制情報が道路管理者ごとに発信されていたため、どの道が通行できるのかが分かりにくかった。

資料：物流ルートに関するアンケート調査 (令和元年 7 月)

資料：一般国道 2 号 (廿日市市阿品～大竹市玖波間) の台風による被害状況

